**聖霊を知る**

**一、聖霊を賜う約束**

真の神はその栄えのある霊を卑しい、罪を犯した世の人に賜る、これはとても貴きことであり、感謝しきれない約束である。下記はこの約束された聖霊に関する預言と予兆を簡単に挙げております。

**（一）預言者たちによる預言**

　**１、明白な約束**

　　「その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ」。（ヨエ二28、29；ゼカ十二10）

　　バプテスマのヨハネは言った「このかたは、聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう」。（マタ三11）

　**2、隠された約束**

　　「主はあなたがたの地に雨を、秋の雨、春の雨ともに、時にしたがって降らせ、」

（申十一14：ヨエ二23～24；エレ五24）

「一つの川がある。その流れは神の都を喜ばせ、」（詩四十六4；参考箇所：黙二十二1；ヨハ七38；エゼ四十七9）

**（二）イエス様による約束**

　**１、死ぬ前の約束**

　　「けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう」。（ヨハ十六13；参考箇所：ヨハ十四26、十五26、十六7．16；ルカ十一13）

　**2、復活後の約束**

　　「彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ。」（ヨハ二十21～23）

　　「あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」。

（ヨハ一4，5，8）

　**二、そのとおりに降された聖霊**

　真の神は契約を守り、恵みを施す（申七9）、彼は自分を偽ることができない（Ⅱテモ二13）、彼が約束されたことは、時が来れば必ず全て実現する。

　**（一）前の雨が最初に降る**

　　1、五旬節の日（主が昇天されて十日目）、約束された聖霊はそのとおりに賜わされた

（使徒二1～4、16～18）。

　　2、使徒時代、イエス様を信じ、切に祈り求める者は必ず聖霊を頂くことができる。

（使徒八14～20、十44～47、十一15～17、十五8、十九1～7；エペ一13，14）

　　3、「彼らは『われわれに雨を与え、秋の雨と春の雨を時にしたがって降らせ、」

（エレ五24）「秋の雨」、「春の雨」は聖霊の象徴であり、「前の雨」、「後の雨」とも

言う。前者は秋季の種まきの前に降され、後者は春季の収穫の前に降される。

　**（二）離れていく聖霊**

　　△約束された聖霊は既に降臨されたが、真理が変異し、異端が現れた世俗されたか教会から聖霊は離れていく。このことは偶然に起こったことではなく、神様の預言された御旨によってである。以下の通りこれを証明することができる。

　　**1、聖霊が離れることに対する預言**

野ぶどう（変種する）を結んでしまったため、神は雲に命じて、その上に雨を降らさない（イザ五3～7）。

　　　エリヤがいた時代、アハブ王とイゼベルが真理を背いたため、真の神は雨をその国に降らさなかった。これは真の神が真理を背く教会に対して、聖霊をその内に降さないことに対する預言である（列王上十六29～十七7）。

　　**2、使徒教会の墜落**

使徒時代において既に「別の福音」を伝えている人がおり、福音を曲げようとしていた。（ガラ一6～9；Ⅱコリ十一4）

　　　これにより、ユダは「聖徒たちによって、ひとたび伝えられた信仰のために戦うことを勧めるように、手紙をおくる必要を感じるに至った。」と言った（ユダ3）

　**（三）後の雨が降る**

　　**1、後の雨が降されることの預言**

「シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しめ。主はあなたがたを義とするために秋の雨を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨と春の雨とを降らせられる」。（ヨエ二23；申十一14；エレ五24）

　　　△農夫は、地の尊い実りを、前の雨と後の雨とがあるまで、耐え忍んで待っている。（ヤコ五7）。秋雨は十月末から十二月下旬まで降る；春雨は三、四月に降る。「雨」は聖霊を象徴しており、雨が二期ごとに降るため、聖霊も二回に分けて降されることを指している。真の神は世の末に収穫すること（人類を救うこと）の大きな仕事ができるよう、使徒時代において既に前の雨、聖霊を降された。よって、主の大いなる恐れるべき日、つまり主が再びこの世界を裁きにかける日が来る前に、前の雨が降されたように聖霊を降される。（ヨエ二28～31）

　　**2、後の雨が降され、真の教会を再建することの預言**

**（1）エリヤが雨を求めることにある預言**

△エリヤはお祈りを通して神様が三年半降りやませた雨を再び盛大に降らせることができた大預言者です。マラキ書四章五節において「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。」と書かれている。これは世の末において、エリヤのような働きをする真の教会が現れることについて預言をしている。

　　　世の末における教会も必ず聖霊の力に頼り、以前において一度聖徒たちに交付した真理のため必死に戦い、民たちを偶像と偽りの真理から離れるように導き、父の心を子に向けさせ、主が再び来る時に全地が呪われることのないように、約束された聖霊降されるようにする。（ミカ三8；マラ四6）

　　　　△エリヤはバプテスマのヨハネを預言することもできる。バプテスマのヨハネはかつてイエス様が世に降った時のさきがけとなった。世の末に主が再臨される前においても必ず主のためにその道を備える真の教会が現れる。（マタ十七10～13；ルカ一15～17；イザ四十3～5）

　　　**（2）再び聖なる宮が再建されることに対する預言**

△旧約時代、ソロモン王が建てた聖なる宮は王様たちと民たちが悔い改めることをせず、何度も罪を犯したことにより、最終的に敵たちによって焼かれ、残りの民たちはバビロンに捕え移された（列王下二十五8～12）。70年が経ち、真の神は預言者による預言を成就するため、ペルシャ王クロスを感動させ、彼らが国に帰り聖なる宮を再建することを許された（歴代下三十六17～23）。

　　　　△ここにおいては霊に属する聖なる宮を預言している――真の教会（Ⅰコリ三16，17、六19；エペ二19～20；Ⅰぺテ二5）も同じ道のりを経験する：建設――滅ぼされる――再建。70年は真の神が指定された一つの期間を預言している。現在はこの70年の期間が満ち、聖なる宮が再建され始める時である。（参考箇所：イザ五十八12、六十一4；アモ九11）。

　　　**3、後の雨真の教会はどこから現れるのか？**

「主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた」。（創二8）

　　　　「その時、見よ、イスラエルの神の栄光が、東の方から来たが、その来る響きは、大水の響きのようで、」（エゼ四十三2；参考箇所：黙十九6，7、二十一10,11）。

　　　　「また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た」。（黙七2；参考箇所：エペ一13）。

　**三、聖霊の特色**

　**1、神が共におられる証拠（Ⅰヨハ三19～24）**

\*神の霊は心の内に住んでいるからである、コルネリオの体験。\*李正雄

　**2、生命の成長を促す動力である（ガラ五25）**

　　\*ペテロの勇敢な証（使徒四8～10、19～22、31）

　**四、聖霊を頂くことの重要性（イザ十一2）**

**1、共に住む霊**

その人がバプテスマを受けて聖霊が彼の身に降った時、その人は神によって油を注が

れ、神によって遣わされ、神の僕であることを表している。

バプテスマのヨハネの証：見よ、この人は神の羊である。

**2、知恵の霊**

　御霊はすべてのものをきわめることができるため、全てのことにおいて起こり得る

問題よりも先に歩むことができる（Ⅰコリ二10）

　　**3、賢い霊**

　　　器用な上、ずる賢くない、安定とした情緒を保つことができる。

　　　イエス様は悪霊を追い出したことにより、他の人に悪霊のかしらによって悪霊を追

い出していると誤解されていた。イエス様はこれに対し、賢さをもって誤解を解いた。

　　**4、慎みのある霊**

その人の思想を成熟させ、問題を認識し、工夫しながら、勇敢に問題を解決すること

ができる。

　　**5、力のある霊**

聖霊は不可能なことを可能にする、主は世の中において聖霊の力に頼って、てんかんに苦しむ子供を癒した。（マル九23）

　　**6、知識のある霊**

人、こと、ものに対して正しい認識がある。

　　**7、敬い畏れることができる霊**

聖霊は人に主をあがめさせることができる。

　**五、聖霊を頂く方法：**

**1、聖霊を追い求めることを重要視する**

\*霊的な修行とお祈りを組み合わせるべきである。

　　**2、主の御旨を理解することを追求する**

　　**3、有効的なお祈り生活を推進する**

　　　聖霊の実を重要視する（ガラ五22～23）

　**まとめ：**

　　お祈りの習慣を作り、必要な時は断食のお祈りをして霊の風を吹かせましょう。